

令和6年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・(知) 絵の具の使い方の指導事項を全校で統一していくことで、どのクラスでも、正しい絵の具の使い方が定着した。来年度以降も継続していくことでさらなる定着を図る。
- ・(思) ICT 器機（スクールタクト）を使った振り返りは1年生から使うことができた作品を見合い、コメント等で児童の感想を交流することができた。
児童同士の作品や途中経過を見合うことで、作品のテーマや材料の活用の仕方の思考の幅を広げることができた。
鑑賞の際に ICT 器機を使うことにより、より細かいところまで作品を見たり、活動が早く終わった児童も時間を有効に使ったりすることができた。
- ・(主) 造形遊びは意欲的に楽しんで取り組むことができていた。普段使わない材料や活動場所との出会いに、児童自身が新しい価値を見出すこともできた。

(2) 課題

- ・(知) 四つ切画用紙と絵の具での製作する題材への取り組みが少なく、大きくつくる、広い画面の中を構成する技能にばらつきがある。
はさみ・のりの基本的な技術力にばらつきがある。
- ・(思) 一人一台の ICT 端末を用い、作品を見合う、意見・感想の交流をする、作品の途中経過を記録して振り返る活動を、新しいアプリケーションの活用の仕方を模索して共有して、鑑賞や振り返りが深まるようにする。
鑑賞したことを言葉で表現する際に、語彙が乏しい。
- ・(主) 身近な材料を使って製作をする時、造形遊びなど大量に身近な材料を使う学習では、児童個人で所持するものだけでは活動が広がらない場合がある。
製作活動に取り組む際に集中力が持たず、表したいことを追求する意識が低下している。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
はさみ・のりの使い方の指導事項を全学年で統一して指導し、児童の基本的な使い方の知識・技能の定着を図る。 ・大きく描く技能の向上のために、四つ切サイズの大きな絵に取り組めるよう題材を計画的に組む。	新しい ICT 器機のソフトを使用して鑑賞を行うことで、児童が感じたことを伝え合い、児童の鑑賞が深まるようにする。 思いを表す言葉を、クラスごとにまとめて鑑賞の際に掲示し、児童の表現語彙を増やす。	造形遊びや工作の製作活動がさらに意欲的に取り組めるように、日頃から材料を集める取り組みを行う。 児童の活動に楽しく取り組む意欲を向上させるために、製作中に児童の作品のよさや工夫を取り上げて児童に周知する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
はさみ・のりの使い方の指導事項を全学年で統一して指導し、児童の基本的な使い方の知識・技能を定着させるとともに、児童が表したいことに合わせた使い方を考えられるようにする手立てとする。	新しい ICT 器機のソフトを使用して振り返りや鑑賞を行うことで、活動や鑑賞で感じたことを伝え合い、新たな表現につなげられるようにする。 思いを表す言葉を、クラスごとにまとめて鑑賞の際に掲示し、児童の表現語彙を増やす。	造形遊びや工作の製作活動がさらに意欲的に取り組めるように、日頃から材料を集める取り組みを行う。 児童の活動に進んで取り組む意欲を向上させるために、製作中に児童の作品のよさや工夫を取り上げて児童に周知する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
刃物・のりの使い方の指導事項を使用学年で統一して指導し、児童の基本的な使い方の知識・技能を定着させるとともに、児童が表したいことに合わせた使い方を考えられるようにする手立てとする。	新しいICT器機のソフトを使用して振り返りや鑑賞を行うことで、活動や鑑賞で感じたことをクラスで共有し、新たな表現につなげられるようにする。 思いを表す言葉を、クラスごとにまとめて鑑賞の際に掲示し、児童の表現語彙を増やす。	工作の製作活動がさらに意欲的に取り組めるように、日頃から材料を集める取り組みを行う。 児童の活動に主体的に取り組む意欲を向上させるために、製作中に児童の作品のよさや工夫を取り上げて児童に周知する。